

## 令和2年度 第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和3年3月24日（水） 15時00分～17時00分

開催場所：旧長井小学校第一校舎 多目的ルーム

出席者：26名（委員13名、事務局13名）

■振興審議会委員 北川忠明会長、遠藤倫夫委員、孫田和彦委員、加藤眞佐夫委員、蒲生直樹委員、齋藤憲幸委員、神田忠正委員、岩井由美子委員、井上榮子委員、齋藤道郎委員、梅村律子委員、平吹登委員、長沼真知子委員  
（出席13名、欠席5名）

■事務局 遠藤健司副市長 齋藤環樹統括監、青木邦博技監、藁谷尊産業戦略監、竹田利弘総務参事、金子剛厚生参事、鈴木会計管理者、小関浩幸教育参事、近藤智規総務課長  
総合政策課 吉川幸代総合戦略室室長、平宗正主任、堤貴史主任、四釜

傍聴者：なし

---

### 【次第】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）
- 3 あいさつ
- 4 協議
  - （1）長井市振興審議会について（資料1）
  - （2）総合計画について（資料2）
    - ①総合計画と進行管理の仕組みについて
    - ②後期基本計画の取組みについて
  - （3）令和2年度市民アンケート調査の結果について（資料3）
  - （4）第五次総合計画の進行管理について（資料4-1、4-2）
    - ①令和元年度実施事業の行政評価について
- 5 その他
- 6 閉会

---

### 【議事録】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）

副市長から新任委員2名へ委嘱状を交付した。
- 3 あいさつ

#### ○遠藤健司 副市長

内谷市長に代わってご挨拶申し上げます。本日は年度末の大変ご多忙のところ第1回長井市振興審議会にご参集いただいた。委員の皆様には日頃から長井市の行政運営全般について特段のご理解とご支援をいただき、重ねて感謝申し上げます。

今日の振興審議会は、令和元年度の長井市の実施事業の行政評価あるいは令和2年度市民アンケートの調査結果についてご報告し、皆様からのご意見をいただきたい。長井市の事業はPDCAサイクルを回しながらマネジメントしており、今回の評価を有効に活用したいと考えている。これからの長井市の行政運営の指針となるように忌憚のないご意見をいただきたい。

現在は「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第2期の初年度にあたる。「長井市の魅力を高め、ひとの循環・交流を強くする」という第1期の目標・目的に沿って、事業を推進しているところ。

人口減少対策については、そう短期間に結果が出るものではない。最近の兆候・特徴的な数字を申し上げますと、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の令和2年度の長井市の予想人口は25,845人であった。この数字は国の推定した数字だが、昨年10月の国勢調査では、ここまでは減らない人口動向になっている。周辺の企業への人の就職、その方々が長井市に住むこと、あるいは長井市の公共施設の工事等々で10月1日現在市に滞在していた方は社人研の推定よりも多くいるということ。これから県の精査を経て確かな人口が出るが、そういった傾向がある。

また、長井市の新庁舎を長井駅とともに整備している。5月6日を新庁舎の開庁日と定め、市民の皆様にも更に良い充実したサービスを提供し、庁舎の中から次の長井市を考えていく議論の場を作っていく。更には、庁舎の隣に多機能型図書館と子育て世代活動支援センターの公共複合施設を建設予定で、令和5年度の開設を目指している。今日の新聞に長井市の地価の公示価格が掲載されており、大きく趨勢は変わっていないが、下がりつつも下がるスピードは少し緩やかになってきたようだ。例えば、住宅地では東町が令和2年は-1.5%だったが、今回も-1.5%となった。商業地の館町南のアズム館前については、下降はなかった。これからの公共施設の整備で街なかの地価等にもいい影響が出て、長井で住む・暮らす人が増えればと考えて政策を進めていきたい。そういったことも、未来を、そして国、県、長井市というところも見比べながら、ぜひ今日は色々のご意見をいただきたい。

#### ○北川忠明 振興審議会会長

今年はコロナ禍で会議の開催を心配していたが、こうやって開催をすることができ、皆様にお会いできたことを本当に嬉しく思う。今副市長の方からもお話があったが、こちらに来る前に新庁舎と駅を見てきた。駅が併設され、隣に複合施設もできるということで、長井市民の方が集まって色々なまちづくりの拠点になるのだろうと、楽しみにしている。副市長のお話にあったが、人口減は緩やかになっていて、予測では上をいくようで、大変いいことだと思っている。このコロナ禍の中でデジタル化というのが言われていて、これまでのような一極集中、あるいは多極集中では駄目だと、地域分散型のデジタル社会を目指した方が長期的には日本に良いという話も出ている。長井市では、オンライン成人式や起業支援、英語教育、これからの流れというのを見据えて色々な取り組みをしているというのが素晴らしいと思う。山形県の話になるが、女性の人口流出数が言われるが、新規の事業所開設数は全国最下位。起業家比率も随分以前と比べて下がった。かつては教育3県と言われていたが、今はそういうことを言わない。将来のまちを支える人材、これを育てていこうと様々な取り組みがされている状況になっている。

今日は総合計画となるわけだが、状況の変化といったこともある。そういったことも踏まえて関連に意見を頂戴したい。

## 4 協 議 [座長=北川会長]

(1) 長井市振興審議会について

(2) 総合計画について

資料1、資料2に沿って、事務局から説明。

(委員)

8ページのデジタルDXについて。マイナンバーカードの交付率22%ということだが、あまりにも低いように思う。なぜ上がらないのか、原因は。ワクチンの接種などに利用価値はあると思うのだが。

(事務局)

現在はマイナンバーカードの交付率が24%を超えている状況。全国的に見ても山形県は交付率が低く、県内で長井市は4番目か5番目の交付率。実際の活用方法が見えてこないのが原因だと思われる。マイナポイント手続きのためにはマイナンバーカードを3月31日まで(※会議当日。現在は4月30日まで)に申請しなければならないので、窓口が混雑しており、交付率もどんどん増えている状況。マイナンバーカードの必要性が普及につながらない原因だと考えている。

(委員)

先週先々週、市から出張してもらって受付を行った。そういう取り組みはとても良いと思うし、続けてもらいたい。運転免許証や保険証として使われるようになるということをもっとPRすべきではないか。

(事務局)

保険証としてのマイナンバーカード利用は、利用するための環境整備が全国的に遅れている状況。これからPRをしていく。

(委員)

公共複合施設について、重要文化的景観を持つ長井の風景に見合った・配慮したデザインにしてもらえないか。デザインの配慮が利便性に反するわけではないと思う。グンゼの宿舍があったとか、長井がどういうまちであったのか、中身や快適さだけでなく風景に見合ったデザインにしてほしい。

市内の公共施設に長沼孝三氏の像が置かれている。可能であれば、公共複合施設にも置くことができるか検討してほしい。

(事務局)

昨日市議会で公共複合施設について、41億8千万円の事業費で可決された。4月から基本設計・実施設計に着手する。市民検討委員会等でご意見をいただいて設計に盛り込んでいきたい。景観への配慮や中心市街地への配慮、使いやすさ等色々なものが加味された施設にしていきたい。

建物以外の敷地が20,000㎡、建物が5,000㎡あるので、内外に色々なものを置くことができると思う。グンゼの敷地内には「我らの工場」という石碑があり、残す予定。長沼先生の像についても検討していきたい。図書館にも郷土の歴史コーナーを設ける。

### (3) 令和2年度市民アンケート調査の結果について(資料3)

資料3に沿って、事務局から説明。

(委員)

定住について、女性の流出口を止めるのは大きな課題になっている。アンケートで年代別・性別を分けているようなので、どのような年代で・性別で等でもう少し分析した結果があると良い。

市民の満足度について、男女共同参画は前回の調査もグラフのこの辺りにあった。重要度が低いと思われるのはどうなのか。また、満足度も低い。今後、公共複合施設等が建つと生涯学習等は充実していくと思うが、その中で男女共同参画をどう伸ばしていくか。来年度から国の男女共同参画基本計画がスタートし、山形県の計画も同じく来年度から新しくなる。長井市も男女共同参画に取り組んでいくとなっているが、例えば、市民アンケートで男女の回答を分けるとどう差があって、その差をどう埋めるのか。これからの男女共同参画は男女だけの問題ではなくて、雇用や健康などの面でも、分野横断的に進める必要があると思う。細かい視点を入れて、どう差を埋めるのか来年度以降考えて欲しい。

(事務局)

市民アンケートは男女別・年代別などでも全て集計はとっている。統計学上、長井だと380から400の回答があれば正答率が98~99%になることから、千人にアンケートを行った。確率的には98%から99%の、市民の方全体が考えているものとなる。若干年代によって回答が多い年代があるなどばらつきはあるが、年代ごとに区切った分析はある。男女共同参画審議会に資料としてアンケート結果を提出するので、ぜひご活用いただきたい。自由記述をまとめたものやグラフなども提供できる。満足度の傾向がいつも同じなので、いかに上げていくか(底上げするか・評価を伸ばすか)施策が必要。各分野の協議会に資料を提供してご意見いただきたい。

(事務局)

更なる分析を行い、男女共同参画審議会に示しながらご意見をいただきたい。委員がご指摘のとおり、アンケートで「社会全体で男女平等だと思いますか」という問いに、「そう思う」「どちらかと言

えばそう思う」という方が38%、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」という方が46%いらっしゃるの事実。

加えて、そう感じるのはどんな時かという問いに、「社会通念や習慣、しきたり」「職場」「家庭生活」この3つが30%以上になっている。市、県、国もこれらの解決を求められている。加えて、それを解決するにはというところで、ハードとソフトの両面の取組を求められている。ハードは学童保育等の整備がある。ソフトでは、男女共同について学習する機会、社会通念に対する働きかけ、学校教育。こういった全ての暮らしの中で平等というものを進めていかななくてはならないと感じる。

山形県の女性の流出率が高い原因については、それぞれの市町村で考えている。長井市の求人求職の情報を見ると、詳しくは分析しないと分からないが、仕事・職場のマッチングにも課題があると感じている。若い人が、働き甲斐があり自由に物が言える環境には、まだまだ取り組んでいけると考えている。

(委員)

アンケートで市民がやってほしいというものに対して、どのような施策で具体的に返すかということと市民は求めていると思う。市民に対するフィードバックが足りないと思う。市報等でお知らせして市民との信頼関係を構築していく必要があると思う。

(事務局)

市民にフィードバックを返すのは必要だと思っている。現在、こういう理由でこの施策が必要という根拠にはさせてもらっている。ただ、フィードバックが弱いのも確か。気をつけていきたいと思う。

#### (4) 第五次総合計画の進行管理について

資料4-1、資料4-2に沿って、事務局から説明。

(委員)

保健について、成果指標が特定保健指導の実施率になっているが、1行目の特定保健指導のことか。また、高齢者福祉の項目で地区のコミセンは6館なのに生活支援コーディネーターが4名なのはなぜか。

生涯学習の項目に放課後子ども教室事業の記載がある。土曜らんどは約20年続いている事業で、放課後子ども教室も令和2年度で6年目を迎えるがコロナで実施できていない。地域学校協働本部事業との関わりもあると思うので、少なくとも学校、家庭、地域が連携していく上で継続していくべきだと思う。令和3年度はどのように実施していくのか。

「学校・家庭・地域が連携した青少年の健全育成や地域における交流と学習の場の拡大」とあるが、学校と家庭、地域の連携については10年前から言われている。今時分で重要なところだと思うので、何らかの具体的な施策が必要ではないか。

(事務局)

保健の成果指標について、項目に特定健康診査と特定保健指導が並んでいるが、その中で特徴的な部分ということで特定保健指導の実施率を成果指標とした。

(事務局)

高齢者福祉の生活支援コーディネーターは、6コミセン中、現在は4コミセンに配置されている。今後は残り2コミセンへも配置の予定。

(事務局)

放課後子ども教室事業については、国・県の支援がなかなか厳しい状況にはなっているが、令和3年度は継続する。加えて、今までこの取り組みを文化生涯学習課と学校教育課が中心で取り組んできたが、5月からの組織機構の見直しでこの担当を地域づくり推進課に移管する。地域総がかりで学校の支援、子どもの支援を行うというのが今後の市の方針なので、力を入れたいと思っている。

(委員)

山形鉄道をどうしても残していただきたい。市民バスの利用者は増えたがフラワー長井線の利用者

は減ったということだが、バスを利用しないというのはあまり大きな課題とは思えない。料金を何とか下げる方法を皆さんと一緒に考えたい。東京から最終の新幹線で帰ってきて、接続が無いのでせめて11時の最終新幹線と接続してほしい。できれば快速で、赤湯の次に宮内、今泉、長井、荒砥と停車する列車があると良い。そこからだとタクシーで帰っても非常に高額な料金にならない。

公共複合施設もできるが、南陽市等からの利用者を全て自家用車で想定しているのか。料金が安ければベビーカーでフラワー長井線を利用してくることも想定できるのでは。

(事務局)

貴重なご意見感謝申し上げます。長井市は元々自家用車に乗られる方が多いので、そういった方はバスを利用するという事は無い。利用しない方がある一定程度かなりの数いらっしゃるの事実。ただ、自家用車が無い方の利用はかなり伸びている。現在、ご高齢者の方の運転免許の自主返納を積極的に奨励しており、返納者には1万5千円分の利用券を渡している。千円定期を設け、積極的に利用していただけるようにしている。市役所の開庁に合わせて、10月にダイヤ改正が行われる。乗りやすい運行形態、デジタル技術も活用して、どこにバスがいるのか、どういった要望があるのかを今後分析等をしていき、まずはバスについて、より利用しやすい形態にするということ考えている。

フラワー長井線については、上下分離方式を導入し、いわゆる下の部分は自治体で持ち、上の部分だけ、経営は山形鉄道ということで認可をいただいた。ただ、やはり高校生が少なくなっているということで経営的には厳しい。県と市と町で支援をしながら存続していきたいと思う。

ダイヤについてだが、今泉～時庭間の米坂線との共用部分が、フラワー長井線ではなくJRから借りている部分で、保安の問題があり、米坂線の最終以降に列車を走らせることができない。そのため、今泉を通過できる時間が限られており、それを伸ばすには、非常に高額な人件費(保安要員等)がかかるのでかなり難しいとのこと。沿線市町、特に長井と白鷹は最終新幹線につながらないというのはかなり大きな問題なので、要望はしている。難しいとは思いますが、利便性の向上のために今後も要望し、いかに運賃を下げられるか、ダイヤも利用しやすいダイヤを県と他の2市2町で十分検討していきたいと考えている。

(委員)

赤湯から今泉までは大丈夫なのか。

(事務局)

それは大丈夫。今泉と鉄橋の先までが駄目だということ。

(委員)

であれば、そこまででもないと良い。

(委員)

8ページの広域行政について、港区と連携を模索するワークショップ等とあるが。また、共生ビジョンとはどういったものか。

(事務局)

地域活性化センターというところで研修を行っており、置賜広域行政事務組合で外部研修に参加した。地域活性化センターには長井市から職員を1人派遣している。港区は全国の多数の自治体と連携をしている自治体で、数十か所の自治体と連携しているようだ。港区から学ぶべきこと、連携した方がいい部分があるので、長井市単独でなく置賜地域全体との連携ができないかということで、ワークショップを開いたと承知をしている。

置賜定住自立圏共生ビジョンについては、例えばフラワー長井線を維持するために2市2町でお金を出していることや長井市・白鷹町・飯豊町などのそれぞれの自治体が運営するバスについて記載している。長井市単独で行くと費用対効果が薄いものを置賜地域全体で取り組んでいくといった内容。また、観光事業のように、長井市単独でなく置賜全体で取り組んでいくものも含まれる。そういった事業に対して、特別交付税措置があり、長井市であれば最大1千5百万円の特別交付の支援が国から受けられる。国の支援を受けながら、そういった事業に取り組んでいるというもの。

(委員)

2点お伺いしたいと思っている。1つはキャリア教育。この資料に起業家教育の実施、あるいはその隣にプログラミング教育の実施が書かれている。今年もだが長井工業の志願率が非常に低く、人口減少に一層拍車がかかるのだろうなと思っている。長井に素晴らしい企業はたくさんあるのだが、やはり小中学生が企業の技術力の高さを知らないのだと思う。長井に密着したキャリア教育が必要ではないかと思う。遠い将来の話なので、それが即効果があるというわけではないが、起業家教育のように英語が喋れてパソコンが弄れて資金繰りをどうするというのも大事なことののだが、それと並行しながら、地元の良さというのも非常に大事にした取り組みをお願いしたいと感じている。

2点目は質問も含む。中央コミセン主催のイベントで商店街歩きに参加し、高野町の商店街や本町の商店街を回った。歩いて回り、実際に店の中に入ってみると、新商品を開発されていたり非常に複合的に事業を展開していたりと特色があった。また、商店街全体が新しくなったので、非常に新鮮な雰囲気だった。考えてみると普段は車で通るので、なかなか魅力に気づけない人が多いだろうと思う。Cross-baにも行ってきたが、地元の産業と都会を結ぶ、コーディネートする会社などもあって非常に興味を持って参加した。独特の考え方や商売にこだわりを持っている方々がたくさんいらっしゃる。その魅力を引き出すためにどのような施策、振興策を図っていくのか。その辺をぜひお聞かせ願いたい。

(事務局)

街中を車ではなく歩いたりあるいは自転車で動いたりすると、本当に魅力のある街だと思う。現在中心市街地活性化計画の実施計画を内閣府に申請しており、今のところ3月末に決定を受けて、事業をすすとなっている。その中でやはり委員が仰ったとおり、街の中の魅力ある商店街を肌で感じてもらうためには色々な施策を打ち出さなければならないと思っている。今までの街なかのイベントでも、色々な商店の方が出ておられるのでイベントを通して実際の店を知っていただくよう取り組んできた。雪灯り回廊での街歩きなど、複合的に取り組むことによって、街の商店の魅力というものを再認識していただくという形で進めていきたいと考えている。

(事務局)

キャリア教育・起業家教育には完成形が無いと思っている。現在長井市では、中学生の大田区での販売体験、職場体験、旧長井小学校での起業家教育等のキャリア教育を行っている。これらを組み合わせ、長井の子どもたちが一度市外に出たとしても長井に戻ってきて、長井で生活して暮らすという形にするためには、起業家教育をもっと充実させていきたいと考えている。起業家教育はまだ始めたばかりで試行錯誤の部分もある。また、今年コロナで起業体験ワークショップを3回計画していたが、1回しかできなかった。その1回もオンラインで行ったが、直接対面せずオンラインという形でできると分かって良かった。仙台でも全校生で起業体験をする学校やオンラインで行っているところがあるなど、色々なケースを参考にしながら、企業の大切さ、長井のものづくり産業の大切さを知ってもらいながらキャリア教育に取り組んでいきたい。

(委員)

実際に商店街で仕事をさせてもらっている。男女共同や起業と話があったが、自身のようはずっと昔から同じ仕事をやっている商店街というのが今後成り立っていかないと感じている。長井市の中で他の真似をしても仕方ない。伝統を大切にするといった長井らしさが必要だと思う。一方で、全く新しいこと、同じカテゴリーの中で同じ商売をしていくということではない。自分の娘が30代半ばで、口を出したりセーブしながらチャレンジさせている。起業創業の話があったが、チャレンジしてみて皆さんの反応を見してみるなど、新しい目を持って伝統のとおりでなく新しいことをやっていくことが必要だと思う。私たち自身がやっていって皆さんからのせっかくのご支援だったりご意見だったりを無駄にしないようにやっていきたい。

(事務局)

大変重要な視点をご提案いただいた。これからもそういったお考えをこの場だけでなく、担当に寄せていただきたい。商工会議所の青年部会が「風の会」というのを立ち上げ、市役所の若手の担当者との交流会を始める。そういったことで新しいものにチャレンジする気運を行政主導でなく、事業者の皆さんのご提案で回していくのが本来であると思う。青年会議所さんもそういったことにいつもご協

力いただいているので、共にやっていきたい。そういった中でキャリア教育もものづくりの人材育成も進んでいくと思う。1つ1つのメニューでなく積み上げる、つなぎ合わせる役割を行政でやっていく。産業の活性化と一緒に取り組んでいきたいと思う。

(委員)

重要文化的景観について、今後のまちづくりにどう生かしていくのかが全然見えてきていない。認定で止まっているのではないか。今後の長井のまちづくりの非常に大きな方向性を与えるものであると思うが、具体的にどうするのか見えてきていない。

(事務局)

文化的景観は景観の国宝と言われ、非常に価値のあるものだと思っている。最上川の舟運で栄えた長井、その後背地である野川の散居集落、水の環境、それらについて、文化庁から新たな計画の策定が求められている。令和3年度の予算の中では、2つの重要文化的な住宅の補修等に補助金を出す。ただ、市民自身が重要文化的な景観のところに住んでいるという意識はまだ少ない、市からのPRが少ないと感じている。市民が誇りを持って守って、他所の方に見ていただいて、それが観光・文化を支えるものにしていくことが重要。守るだけではなかなか厳しく、観光・産業もと考えている。文化庁には実施計画を示しながら年次でしっかり進めていくことになる。まずは実施計画を策定し、更に気運醸成とPRを図り、内外に認めてもらえるようにしていく。

(委員)

人口減少を止めるために色々な施策をやっているわけだが、人口減少によって、既に地区の活動は阻害されている。地区の編成は長井市では60年程前に決められたおり、当時の139地区で今に至っている。今の状況では中心28地区に人口と世帯数の48%が集中している。

1番の問題は地区長の成り手・後継者がいないこと。面積が広く、人口は減っている。アンケートでは「コミュニティに参加したい」と答える方が多いが、実際にコミュニティの先頭に立つ人は少ない。そういう中で、ある程度まとめないと地区活動ができない。その辺りを今後の課題として、行政に取り上げていただきたい。3年かかって再編会議を行ったが、行政側は再編に消極的。第五次総合計画期間には間に合わないが、次の重点目標にぜひ取り上げていただきたい。重点目標に取り上げるという姿勢を見せていただかないと、地区単独ではとてもできる内容ではない。

(事務局)

承りました。

## 5 その他

副市長より3号委員の任期満了及び自身の任期満了を報告。

## 6 閉会

以上